

平成22年度 精神科薬物療法認定薬剤師認定試験

出題基準と範囲

1. 精神科疾患

1) 統合失調症

- ① 統合失調症の診断基準が説明できる。
- ② 統合失調症の評価尺度が説明できる。
- ③ 統合失調症の疫学が説明できる。
- ④ 統合失調症の病態が説明できる。
- ⑤ 統合失調症の治療方法が説明できる。

2) 気分障害

- ① 気分障害の診断基準が説明できる。
- ② 気分障害の評価尺度が説明できる。
- ③ 気分障害の疫学が説明できる。
- ④ 気分障害の病態が説明できる。
- ⑤ 気分障害の治療方法が説明できる。

3) 神経症・心身症

- ① 神経症・心身症の診断基準が説明できる。
- ② 神経症・心身症の疫学が説明できる。
- ③ 神経症・心身症の病態が説明できる。
- ④ 神経症・心身症の治療方法が説明できる。

4) アルコール依存症

- ① アルコール依存症の診断基準が説明できる。
- ② アルコール依存症の疫学が説明できる。
- ③ アルコール依存症の病態が説明できる。
- ④ アルコール依存症の治療方法が説明できる。

5) 広汎性発達障害

- ① 広汎性発達障害の診断基準が説明できる。
- ② 広汎性発達障害の疫学が説明できる。
- ③ 広汎性発達障害の病態が説明できる。
- ④ 広汎性発達障害の治療方法が説明できる。

6) 認知症

- ① 認知症の診断基準が説明できる。
- ② 認知症の評価尺度が説明できる。

- ③ 認知症の疫学が説明できる。
- ④ 認知症の病態が説明できる。
- ⑤ 認知症の治療方法が説明できる。

2. 心理教育

1) 心理教育の理論

- ① 心理教育の目的が説明できる。
- ② 心理教育の理論が説明できる。
- ③ 心理教育の効果が説明できる。

2) 心理教育の実際

- ① 心理教育の実践と評価が説明できる。
- ② 心理教育と薬物治療の併用効果が説明できる。

3. 向精神薬

1) 向精神薬の分類

- ① 向精神薬の分類が説明できる。
- ② 向精神薬の使用目的が説明できる。

2) 抗精神病薬

- ① 抗精神病薬の分類が説明できる。
- ② 抗精神病薬の治療目標が説明できる。
- ③ 抗精神病薬の薬理作用が説明できる。
- ④ 抗精神病薬の効果が説明できる。
- ⑤ 抗精神病薬の副作用が説明できる。
- ⑥ 薬原性錐体外路症状とその評価が説明できる。
- ⑦ 抗精神病薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑧ 効果的な薬物治療が提案できる。
- ⑨ 定型抗精神病薬から非定型抗精神病薬への切り替えについて提案できる。

3) 抗うつ薬

- ① 抗うつ薬の分類が説明できる。
- ② 抗うつ薬の治療目標が説明できる。
- ③ 抗うつ薬の薬理作用が説明できる。
- ④ 抗うつ薬の効果が説明できる。
- ⑤ 抗うつ薬の副作用が説明できる。
- ⑥ 抗うつ薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑦ 効果的な薬物治療が提案できる。

4) 気分安定薬

- ① 気分安定薬の分類が説明できる。
- ② 気分安定薬の治療目標が説明できる。
- ③ 気分安定薬の薬理作用が説明できる。
- ④ 気分安定薬の効果が説明できる。
- ⑤ 気分安定薬の副作用が説明できる。
- ⑥ 気分安定薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑦ 効果的な薬物治療が提案できる。

5) 抗不安薬

- ① 抗不安薬の分類が説明できる。
- ② 抗不安薬の治療目標が説明できる。
- ③ 抗不安薬の薬理作用が説明できる。
- ④ 抗不安薬の効果が説明できる。
- ⑤ 抗不安薬の副作用が説明できる。
- ⑥ 抗不安薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑦ 効果的な薬物治療が提案できる。

6) 睡眠薬

- ① 睡眠薬の分類が説明できる。
- ② 睡眠薬の治療目標が説明できる。
- ③ 睡眠薬の薬理作用が説明できる。
- ④ 睡眠薬の効果が説明できる。
- ⑤ 睡眠薬の副作用が説明できる。
- ⑥ 睡眠薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑦ 効果的な薬物治療が提案できる。

7) 抗酒薬

- ① 抗酒薬の薬理作用が説明できる。
- ② 抗酒薬の治療目標が説明できる。
- ③ 抗酒薬の効果が説明できる。
- ④ 抗酒薬の副作用が説明できる。
- ⑤ 抗酒薬の相互作用及び禁忌が説明できる。
- ⑥ 効果的な薬物治療が提案できる。

8) 抗認知症薬（中核症状）

- ① 抗認知症薬の薬理作用が説明できる。
- ② 抗認知症薬の治療目標が説明できる。
- ③ 抗認知症薬の効果が説明できる。
- ④ 抗認知症薬の副作用が説明できる。
- ⑤ 抗認知症薬の相互作用及び禁忌が説明できる。

⑥ 効果的な薬物治療が提案できる。

9) 抗認知症薬（周辺症状）

① 周辺症状の治療目標が説明できる。

② 周辺症状の治療薬の効果が説明できる。

③ 周辺症状の治療薬の副作用が説明できる。

④ 周辺症状の治療薬の相互作用及び禁忌が説明できる。

⑤ 効果的な薬物治療が提案できる。

4. 薬剤管理指導業務

1) 統合失調症患者に対して

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

③ 服薬継続の必要性が説明できる。

2) 気分障害患者に対して

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

③ 服薬継続の必要性が説明できる。

3) 神経症・心身症

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

4) アルコール依存症

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

5) 広汎性発達障害

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

6) 認知症

① 薬物治療の目的が説明できる。

② 副作用と対処方法が説明できる。

参考図書

- ・ 精神疾患の薬物療法ガイド（星和書店）
- ・ 薬原性錐体外路症状の評価と診断（星和書店）
- ・ 精神薬理学エッセンシャルズ第2版（メディカルサイエンスインターナショナル）
- ・ DSM-IV-TR 精神疾患の分類と手引（医学書院）

- ・ ICD-10 精神および行動障害 (医学書院)
- ・ わかりやすいSSTステップガイド (星和書店)
- ・ 家族教室のすすめ方 (金剛出版)
- ・ 臨床精神神経薬理テキスト (星和書店)
- ・ 精神科薬剤師業務標準マニュアル2007-08, 南山堂、東京.
- ・ 統合失調症の薬物療法100 のQ&A (星和書店)
- ・ アルコール・薬物関連障害の診断・治療ガイドライン (じほう)